

人気の 「相談」コーナーを “潜入取材”



分かりません」と率直に質問した。

なんでも、「法律学科は法律の勉強ばかりするのではないかという不安があり、政治学科はまったく何をやるのか分からない」のだ

てくれた。

3年次編入志望の短大生も

オープンキャンパスに参加するのは、高校生だけではない。短大1年生という女子学生2人は、3年生から中央大学に編入したいと考えている。なぜ、編入という道を選ぶのだろうか。

「将来きちんとしたところへ就職するためには、短大を出ただけではだめ。2年後のことをきちんと考えてきました」という。大学生活だけでなく、就職を視野に入れているところが、さすが短大生だと感心した。さらになぜ中央大学なのかを尋ねると、「中央は学生がみんな真面目という印象を持っている。また、就職が金融に強いので来てみました。」という答えが返ってきた。

外国語入試の相談多い文学部

「文学部」のブースでは、「中高一貫校なので、英語は中学校で終

オープンキャンパス初日の8月3

日、多摩キャンパスは猛暑にもかかわらず中央大学を志望する中・高校生や保護者らであふれかえった。数多くあるイベントのなかでも毎年、人気を集めるのが、教授や現役の中大生による「相談コーナー」だ。授業に関する生の情報や先輩たちの体験談が直接、面談して聞かれるのだから、受験志望の高校生らにはそうはないチャンス。どんな相談が行われているのだろうか、と学生記者が「潜入取材」した。

学部ごと設けられた相談ブース

「相談コーナー」があるのはCS

クエアの1階で、「各学部・学科」

「入試対策」「FLP」「経理研究所」「海外留学」などさまざまなカテゴリーに分かれてブースが設けられ、机を挟んで相談が行われていた。オープンキャンパスに参加する高校生は総じて、大学生活に対するモチベーションが高いようだが、この相談コーナーにやってくる高校生は特にそうであるように感じられた。

法学部3学科の違いは?

「法学部」のブースにやってきた女子高校生は、この日の相談担当の教授に「法学部には3つの学科があります。どのように違うのかよく

そうだ。教授から詳しく説明を受けると、「国際企業関係法学科に興味湧いてきた」と笑顔でブースを後にした。

入試の勉強はどのようにしたら?

相談を受ける中大生にどのような相談が多いのかを聞いてみた。「夏の今の段階では『学部・学科でどのようなことを学ぶのか』や『入試に向けてどのような勉強をしたら良いのか』など基本的な質問が多いです」。また、「東京や埼玉、神奈川など近場から来ている人がほとんどですが、岐阜や宮崎などの遠くから来ている人もいます」と感心したように話し



Cスクエア1階の相談コーナー

了。中学校と高校でフランス語を選択しているのに、フランス語入試について聞きにきました」と1年生という女子高生。「学校の宿題でオープンキャンパスのレポートを出すんです」と言いながら、説明に耳を傾けていた。

文学部では、英語以外の中国語やフランス語など外国語入試に関する相談が多いと感じた。

会計士目指し宮崎県から相談に

「商学部」ブースで目につくのは、公認会計士などの資格取得を目指す高校生の相談だ。「資格相談」では、公認会計士を目指すという高校2年生の女子が、「資格取得のためのコースや授業について聞きたい」と相談の順番を待っていた。この女子高生は、母親と一緒に宮崎県から泊まりがけで来たという。オープンキャンパス巡りは中央大学が4校目で、時計をみながら、帰りの飛行機のことを気にしていた。

「FLP」に魅力感じ中大志望

記者が最も印象的だったのは「FLP」のブースに並んでいた神奈川県的女子高校生だ。「FLPが何か知っていますか?」と記者が声をかけると、「FLPに魅力を感じて中大を志望しています」と即答した。国際協力で興味を持っていて、中学生のころからJICAの職員の方と話しを聞いたり、「ドイツ国際平和村」の活動について調べたりしているという。

「ただ国際協力がしたい、という思いだけではだめ。世界の現状について知り、国際協力の基礎となる考えを身につけたい」と強い眼差しで語っていた。

高校生の希望大学に対する熱い思いや、勉強への意欲を肌で感じ、記者も大学生生活を振り返り、初心に帰るいい機会となった。

（学生記者 石川可南子Ⅱ法学部1年）